

# 寝屋長者屋敷跡伝承地

——寝屋川市水道局寝屋配水場築造に伴う  
発掘調査概要報告——

1984・3

寝屋川市教育委員会

# 寝屋長者屋敷跡伝承地

—寝屋川市水道局寝屋配水場築造に伴う  
発掘調査概要報告—

1984・3

寝屋川市教育委員会

## は　し　が　き

室町時代から江戸時代にかけて書かれた『御伽草子』は、広く世の人々に読まれ親しまれてきました。その中でも有名な「鉢かづき姫」の物語は、本市の寝屋地区を舞台として書かれたものであると言われており、鉢かづき姫の住まいした寝屋長者屋敷跡と伝えられているところもあります。地元の寝屋地区はもとより隣の打上地区においても鉢かづき姫にまつわる多くの伝承が今も人々の間に伝えられています。

このたび寝屋川市水道局寝屋配水場築造に伴う事前の発掘調査を実施し、その調査報告をまとめる運びとなりました。調査地からは、竪穴式住居跡・井戸・溝・耕作痕と考えられる溝等が発見され、遺物としては縄文時代から中世にかけての数多くの遺物が出土し、この地域が縄文時代から中世にかけての複合遺跡であることが判明しました。

調査地周辺は、まだまだ静かな田園地帯ですが、開発の波がひしひしと押し寄せてこようとしています。本市教育委員会としましては、文化財を保護し後世の人々に伝えるべくこれからも一層の努力を重ねてまいりたいと存じます。

今回の調査の実施にあたっては、寝屋川市水道局の多大なるご協力を受けたことはもちろんのこと、地元の方々、調査事業にご協力、従事された関係諸氏に深く感謝の意を表す次第です。

昭和59年3月

寝屋川市教育委員会

教育長　坂　中　　僕

## 例　　言

1. 本書は、寝屋川市水道局寝屋配水場築造に伴う寝屋川市大字寝屋所在の寝屋長者屋敷跡伝承地の発掘調査概要報告書である。
2. 本調査は、寝屋川市教育委員会が寝屋川市水道局の依頼を受けて実施したものである。
3. 本調査に要した費用は全て寝屋川市水道局が負担した。
4. 調査は、発掘調査及び整理業務を含め、昭和58年7月1日に着手し、昭和59年3月31日完了した。
5. 発掘調査及び整理は、寺前治一寝屋川市文化財保護審議会会长長、賴川芳則同志社大学講師を調査顧問とし、寝屋川市教育委員会社会教育課塩山則之を担当者とし、補助員として松田祥子・奥田達治・増崎勝敏があたった。
6. 本書の作成については、塩山が執筆、実測・トレースは松田・平野敦子が、写真撮影は塩山がそれぞれ担当した。
7. 発掘調査の進行・報告書の作成などについては、大阪府教育委員会文化財保護課、財団法人枚方市文化財研究調査会、東大阪市教育委員会勝田邦夫氏、四条畷市教育委員会野島稔氏、交野市教育委員会鵜飼満男氏の各氏の御指導・御教示を頂き、寝屋川市水道局の全面的な協力を得た。記して厚く感謝の意を表します。

# 目 次

## はしがき

## 例 言

I 位 置 と 環 境 .....	1
II 調査に至る経過 .....	5
III 調査の概要 .....	6
IV 遺 物 .....	8
V 遺 物 観 察 表 .....	10
VI お わ り に .....	13

## 図 版

## 図 版 目 次

図版 1	寝屋長者屋敷跡伝承地周辺遺跡分布図	15
図版 2	調査地位置図	16
図版 3	調査地周辺字切図	17
図版 4	遺構図	18
図版 5	竪穴式住居実測図	19
図版 6	調査地区断面図	20
図版 7	調査地区断面図	21
図版 8	出土遺物実測図	22
図版 9	出土遺物実測図・石器	23
図版10	遺構	24
図版11	遺構	25
図版12	遺構	26
図版13	竪穴式住居	27
図版14	井戸 1	28
図版15	井戸 2	29
図版16	出土遺物	30
図版17	出土遺物・石器	31
図版18	出土遺物	32
図版19	出土遺物	33
図版20	出土遺物・陶器	34

## 挿 図 目 次

挿図 1	井戸 2 断面実測図	7
------	------------	---

## I. 位置と環境

寝屋長者屋敷跡は、大阪府寝屋川市寝屋地区を中心とした地に、民間伝承として今なお伝えられている。寝屋長者屋敷跡伝承地のある寝屋地区は、大阪府と奈良県の府県境に連なる生駒山系の西側斜面から派生する洪積層の寝屋川市東部丘陵の東端、交野市と境を接した海拔45m前後の丘陵地形に立地している。

この寝屋地区周辺の調査は、過去数度の表面採集調査が実施されたのみで、本格的な調査は、今回調査を実施した地区の東約200mで交野市教育委員会によって昭和50年国鉄片町線復線化工事に伴って実施された国鉄片町線星田駅西遺跡の調査だけである。

生駒山系の西に広がる台地は、おもに大阪層群によって形成され、北は京都府八幡市の八幡丘陵（男山丘陵）、枚方台地から、南は四條畷市の南野丘陵までづく淀川左岸に形成された広大な丘陵及び台地であり、寝屋長者屋敷跡伝承地のある寝屋川市東部丘陵地域は、ほぼその中心に位置している。

この丘陵地域には、旧石器時代から各時期を通じて数多くの遺跡が知られている。旧石器時代には、有舌尖頭器・国府型のナイフ形石器・石核・翼状剥片等を出土した枚方市楠葉東遺跡、国府型のナイフ形石器・石刃を用いた小型ナイフ形石器・搔器・石核が出土した津田三ツ池遺跡、津田三ツ池遺跡と穂谷川をはさんで対峙する藤阪宮山遺跡では、切り出し状の小型ナイフ形石器・国府型ナイフ形石器・細石器・石核などが出土し、藤阪南遺跡からは木葉状尖頭器が出土しており、交北城の山遺跡から国府型ナイフ形石器・星ヶ丘西遺跡からも国府型ナイフ形石器・小倉東遺跡から小型舟底形石器・藤田土井山遺跡からは有舌尖頭器が出土している。交野市の神宮寺遺跡からは、国府型ナイフ形石器・有舌尖頭器・石核等が出土し、星田付近などでも尖頭器が出土しており、布懸遺跡からは、小型のナイフ形石器が出土している。寝屋川市高宮遺跡から国府型ナイフ形石器が出土し、太秦遺跡では、ナイフ形石器・打上でナイフ形石器がそれぞれ表面採集されている。四條畷市更良岡山遺跡では、ナイフ形石器・削器・彫器・舟底形石器・大型両刃の礫器が出土し、有舌尖頭器を出土した南山下遺跡、木葉状尖頭器を出土した岡山南遺跡、

ナイフ形石器が採集されている忍陵遺跡など20遺跡をこえる旧石器時代の遺跡が数多く点在している。

縄文時代になると、早期初めの編年基準となった尖底の押型文をつけた「神宮寺式土器」として、学史上有名な交野市神宮寺遺跡、神宮寺式に後続する枚方市穂谷遺跡、四條畷市田原遺跡、大東市寺川堂山下遺跡があり、前期には、枚方市穂谷遺跡、津田三ツ池遺跡、寝屋川市高宮遺跡が知られている。中期になると、キャリバー式土器を出土した交野市星田旭遺跡、船元式土器を出土する四條畷市南山下跡、砂遺跡があり、後期・晩期には、小堀棺として使用された可能性がつよい埋甕を出土した枚方市交北城の山遺跡、寝屋川市小路遺跡、中津式・滋賀里式・船橋式土器等を出土した四條畷市更良岡山遺跡が所在している。

弥生時代には、畿内第Ⅰ様式新段階の壺及び甕をそれぞれ出土した四條畷市田原遺跡、雁屋遺跡、大東市中垣内遺跡があり、中期初頭には、甕の口縁部端部にキザミ目がめぐる畿内第Ⅱ様式の土器を出土し、河内平野と枚方台地の接点に位置し、高地性集落として注目されている寝屋川市太秦遺跡、堅穴式住居と高床式の掘立柱建物や井戸からなる集落の一部と、42基の方形周溝墓などの墓域が発見された枚方市交北城の山遺跡や田の口山遺跡がある。後期になると、淀川左岸地域の遺跡数は膨大な数にのぼり、焼けおちた住居跡を検出した枚方市長尾西遺跡、集落と墓域を区画するV字溝等を検出した星ヶ丘西遺跡、小型仿製重圓文鏡・分銅形土製品を出土した鷹塚山遺跡、六角形の建物跡を検出した山之上天堂遺跡、寝屋川市においては、後期の長頸壺片を出土した寝屋遺跡、池の瀬遺跡、小路遺跡が知られている。

古墳時代には、淀川をのぞむ台地上に築かれ、吾作銘四神四獸鏡など八面の銅鏡を出土した枚方市万年寺山古墳、画文蒂神獸鏡・銅鍔・碧玉製の鏡形石製品等を出土した藤田山古墳、前方後円墳5基、円墳3基からなる交野市森古墳群、粘土郴内から硬玉製勾玉、ガラス製小玉などを出土した妙見山古墳、全長約80mの前方後円墳で長さ約6.3m、幅約1m、高さ約0.7mの竪穴式石室を有する四條畷市忍ヶ丘古墳が知られている。中期になると二重の空濠をもつ枚方市牧野車塚古墳、ノゾチ伝承をもつ禁野車塚古墳、筒形銅器・巴形銅器・横矧板鉢留短甲などを模した形象埴輪等が出土したり、方形の周濠をめぐらす円墳などが検出された交野市寺

・車塚古墳群、四條畷市墓の堂古墳がある。後期になると、枚方市中宮古墳群、朱彩の石室をもつ白雉塚古墳、交野市倉治古墳群、寝屋川市においては、神武東征伝承をもつトノ山（高塚）古墳、太秦1号墳・廻シ塚古墳を含み、六鈴鏡や三環鏡などが出土している太秦古墳群、北河内地方最大規模の横穴式石室（無袖型）をもつ円墳の寝屋古墳、江戸時代『河内名所図会』に「八十塚（やそつか）」として紹介されているが後世の開墾等のためほとんどその姿を消している打上古墳群、長さ3m、幅1.5mの板状の花崗岩を下石とし、その上に直径約3m、高さ約1.5mの花崗岩の巨石を置き、奥行2.3m、幅0.9m、高さ0.7mにくりぬいた両袖式の横口式石槨を有し、国の史跡に指定されている古墳時代終末期のものとして著名な石の宝殿や、蓋形埴輪のほか多数の埴輪を出土した四條畷市更良岡山古墳群がある。

切妻造りの家形埴輪や円筒埴輪を出土した四條畷市岡山南遺跡、人物埴輪の頭部や蓋形埴輪を出土した忍ヶ丘駅前遺跡、5世紀後半の多量の製塙土器を出土した中野遺跡、石敷製塙炉や方形周溝状の周溝内から四体分の小型の古代馬（蒙古系馬）の骨を出土した奈良井遺跡などの古墳時代の集落もある。

高宮廃寺跡西側の高宮遺跡がある丘陵頂上付近では、一辺約1mの巨大な柱穴をもつ掘立柱建物群や、一辺約4mの竪穴式住居群が発見されており、掘立柱建物群と竪穴式住居群とは、長い柵列によって区画されていたようであり、出土遺物から飛鳥・白鳳時代の集落遺跡で、この地に居住した人々によって白鳳時代初期に高宮廃寺が創建されたことが知られている。いま高宮廃寺跡の西塔推定地には、天萬魂命を祭神とする延喜式内社大杜御祖神社が鎮座しているが、昭和55年の調査において北西約50mの旧社殿伝承地から神社遺構と推定される2間×3間の掘立柱建物跡を検出している。さらに西約150mには、江戸時代讚良郡の一の宮とされ先の天萬魂命の子神を祭神とする延喜式内社高宮神社が鎮座している。

古代寺院としては、枚方市中山觀音寺跡、交野市長法寺跡、寝屋川市太秦魔寺跡、高柳庵寺跡、寝屋川市と四條畷市にまたがる讚良寺跡、正法寺跡などがある。

中世の集落遺跡としては、井戸・溝・掘立柱建物跡を検出した交野市外殿垣内遺跡、中世～江戸時代までの遺構を検出した星田駅西遺跡、旧東高野街道沿いで中世の遺物の散布をみる寝屋川市寝屋遺跡、寝屋東遺跡、鎌倉時代から室町時代初期

に属する掘立柱建物や石群造構を検出した国守遺跡、室町時代の井戸 12基・溝・  
掘立柱建物跡を検出した四條畷市忍ヶ丘駅前遺跡があるなど、中世以降東高野街道  
沿いの集落が多く出現するようになってくる。

このように周辺各市において注目すべき遺跡の分布がみられる。

## II 調査に至る経過

室町時代から江戸時代の初めにかけてつくられた『御伽草子』の「鉢かづき」には、「中昔のことによけん、河内國、交野の辺に備中守さねたかといふ人ましましける。云々」（岩波日本古典文学大系『御伽草子』より）とあり、この地域に広大な長者屋敷があったと、鉢かづき姫の伝承とともに広く人々の間で語り伝えられてきた。

今回調査を実施した寝屋は、古代においては交野郡に属し、村名の由来は交野の星田を中心があった「星田牧」の従事者の宿泊所を設けたのがこの地であったことによるとか、東高野街道を往来する旅人の布施屋の設備があったことによるものであるという説があり、この地に比較的古くから集落のあったことが推察されていた。今回調査地の東約200mで交野市教育委員会によって実施された国鉄片町線星田駅西遺跡からは、中世から江戸時代にかけての集落の一部を検出しており、また周辺一帯から土師器片や瓦器辺など中世の遺物が採集されている。

昭和52年4月、寝屋川市水道局により寝屋川市大字寝屋96の2番地（字名萩原）に配水場の築造が計画された。寝屋川市教育委員会は、寝屋川市水道局と協議を重ね、事前に発掘調査を行うことが決定し、試掘調査を実施した。

試掘調査は、昭和57年12月に東西25m、南北2mのトレンチを南より第1、第2、第3、第4トレンチとして4本、第3、第4トレンチの間に東西2m、南北5mのトレンチを第5トレンチとする計5本のトレンチを設定して遺構の保存状態及び基本的な層序を確認するために実施した。その結果、第1、第2トレンチで耕土下約30cmで中世の遺物包含層、50cm下で溝状遺構を検出し、第3、第5トレンチでは落ち込み状遺構及び溝状遺構を検出した。調査地の北端に設定した第5トレンチでは、後世の削平がはげしく、耕土の下はすぐに地山となっており、遺物・遺構を検出することはできなかった。

以上試掘調査の結果から、全調査対象面積約2100m<sup>2</sup>のうち北側の一部を本調査の範囲から除外し、約1800m<sup>2</sup>について全面調査を昭和58年7月1日より実施した。

### III 調査の概要

今回の調査地は、寝屋川市大字寝屋96の2他で字名を萩原といい、交野市と境を接し現在の寝屋の集落の東端に位置する旧水田地である。

調査の対象面積は、約2100m<sup>2</sup>であったが、昭和57年12月に実施した事前の試掘調査による結果から、遺物・遺構の検出されなかった北端の一部を除外した約1800m<sup>2</sup>について本調査を実施した。

まず、東西南北10m四方区画に基準杭の設定して区画設定を行ない、東西方向を北からAライン、Bライン、Cライン、Dライン、Eライン、Fライン、Gラインとし、南北方向を東から1ライン、2ライン、3ライン、4ライン、5ライン、6ラインと命名し、北東杭を基準杭としA-1、A-2、A-3……とした区画を設定して実施した。

今回の調査で検出した主な遺構としては、井戸2、竪穴式住居跡1、溝、耕作痕等である。

#### 1. 井戸

今回の調査で検出した井戸は、すべて素掘りの井戸である。

##### 井戸1. (図版 14)

上端で直径0.6m、深さ0.6m、底部の直径0.5mを測る円形の掘り方で、井戸底の中央がさらに直径0.15mの円形の掘り方で深さは、5mまで確認したが不明である。井戸の内から遺物は木片が数点のみであった。この井戸は、約20cmの耕土下の床土から掘り込まれている。

##### 井戸2. (挿図1、図版 15)

上端で直径1.5m、深さ0.4m、底部の直径1.2mを測る円形の掘り方で、井戸底は平坦ではなく起伏がある。井戸内部からは、数点の土師器片を出土したにすぎない。

#### 2. 竪穴式住居 (図版 5.13)

一辺4.5m、周壁の残存高約30cmを測り、隅丸方形のプランを呈している。南東壁より3.5mを残して、北西は削除されている。柱穴は浅く約10cmの深さであ

る。遺物は、土師器の小破片が出土しただけである。

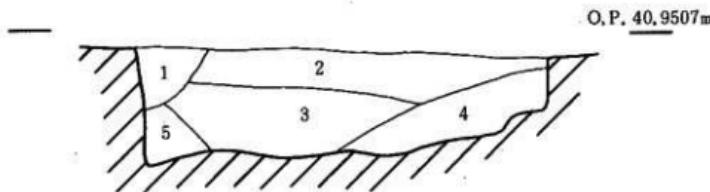
### 3. 溝

調査地のほぼ全域から検出しており、溝底のレベルより南東から北西へ走る流路と、東から西への流路の溝に大別できる。溝幅は、 $0.3\text{ m} \sim 0.5\text{ m}$ 、深さ $0.1\text{ m} \sim 0.2\text{ m}$ でU字状を呈している。

遺物はほとんど出土せず、土師器、瓦器の小破片を出土しているにすぎない。

### 4. 耕作痕

D-3で検出しており、東北から西南方向に走るものであり、幅約 $0.2\text{ m}$ 、深さ約 $0.2\text{ m}$ のU字状を呈している。遺物は、土師器・瓦器等の小破片を出土している。



- 1. 黄褐色粘質土層
- 2. 暗褐色砂質土層
- 3. 灰褐色砂質土層
- 4. 黄褐色粘土層
- 5. 灰褐色粘質土層

挿図1 井戸2断面実測図

## IV 遺物

今回の調査地からの出土遺物は、弥生式土器・須恵器・土師器・瓦器・土釜・土鍤・磁器・陶器・石鏃・剥片、貨銭等が、遺物包含層・溝・ピット等から出土している。しかし、その多くは小破片で器形の復原は困難なため、器形復原できる土器及び土鍤・ナイフ形石器・石鏃・貨銭についてのみ報告することにする。

### 土鍤（図版8・15-1～5）

5点を出土しており、全て棒状のものに粘土を巻きつけて成形し、表面はナデ調整を行っている。

長さは、3～4cm前後、胴部径は、1.0～1.5cmの太さをもっている。

それぞれの土鍤は、中心部に3mm前後の孔をあけている。

胎土には細砂粒を若干含む程度で精選された材料を使用しており、表面もナデ調整も丁寧である。焼成も良好で淡赤褐色や赤褐色を呈している。

### 弥生式土器（図版8・15-7）

底部のみの出土である。

### 土師質小皿（図版8・15-6）

復原口径約9cmで、整形は雑であるが胎土は精良である。

### 瓦 器 槌（図版8・15-8）

復原口径約14cm、高台がほぼ退化しており、調整は雑である。

### 砥 石（図版8・15-9）

1点出土している。石材は不明で四面が使用されている。

### ナイフ形石器（図版9・16-1）

石材はサヌカイトで、素材は翼状剥片を利用したものである。

#### 石 鐵（図版9・16-2～17）

16点出土しており、石材はチャート2点（5・17）とサヌカイト15点（2.3.4.・6～16）である。

凹基無茎式のもの（2～9）と、平基無茎式のもの（10・11）と、凸基有茎式のもの（12～15）と、欠損等により形状の不明なもの（16・17）が出土している。

今回の調査で、これらの石鐵に伴う土器の出土は弥生式土器底部一点のみであるけれども、今後この地域でこれらの時期の遺跡発見の可能性を示唆している。

#### 貨 錢（図版17-1～7）

7点出土しており、不明の2点を除きすべて北宗錢である。

## V 遺物観察表

### 貨 錢

古銭名	図版及び 図版番号	鑄造年代	鑄造年代(西暦)	出土地点	備考
天聖元寶	17-1	天聖元年	1023年	D-2 青灰色粘質土層	
熙寧元寶	17-2	熙寧年間	1063~1077年	D-4 青灰色粘質土層	
元豐通寶	17-3	元豐年間	1078~1085年	南区トレンチ 床土	
紹聖元寶	17-4	紹聖年間	1094~1097年	D-3 青灰色粘質土層	
聖宋元寶	17-5	建中靖國元年	1101年	E-3 床土	
永□□寶	17-6	不明	不明	D-4 床土	
□□□□	17-7	不明	不明	南区 表採	

### 土 器

種類	図版及び 図版番号	法量	特徴	色調・胎七・焼成	備考
赤生式土器	8 15-7	底部直径 4.6 cm 残存高 2.2 cm	内、外とも磨滅が 著しく調整は不明	◦外面淡褐色、 ◦内面黒褐色 ◦小砂粒を多く ◦含む ◦良	表採
土師質小皿	8 15-6	口径 9 cm 器高 1.4 cm	◦平底で、やや外反ぎ ◦みに体部はたちあがり ◦口縁部端であるくとじる	◦白黄褐色 ◦良質 ◦硬	溝状造構
瓦器 植	8 15-8	口径 14 cm 器高 4.9 cm	低い高台が付き口縁 ◦部に1条の沈線。 ◦整形は難。	◦黄白色 ◦良質 ◦軟	F-4 灰褐色砂質 土層

## 石 器

種類	図版及び 図版番号	現存長 (mm)	最大幅 (mm)	厚み (mm)	重さ (g)	石質	出土地点	備考
ナイフ形石器	9-1 16	25.1	12.3	6.2	1.3	サスカイト	D-1 青灰色粘質土層	
石鎌	9-2 16	22.2	17.5	3.5	0.7	サスカイト	G-4 灰褐色粘質土層	
石鎌	9-3 16	24.0	17.9	5.0	0.9	サスカイト	C-3 青灰色粘質土層	
石鎌	9-4 16	22.3	16.8	3.8	0.9	サスカイト	D-1 床土	
石鎌	9-5 16	18.2	12.7	2.8	0.4	チャート	E-3 床土	
石鎌	9-6 16	21.7	12.0	3.3	0.7	サスカイト	C-2 青灰色粘質土層	
石鎌	9-7 16	25.8	16.6	3.0	0.8	サスカイト	E-3 青灰色粘質土層	
石鎌	9-8 16	22.8	13.5	2.2	0.55	サスカイト	C-3 青灰色粘質土層	
石鎌	9-9 16	14.3	14.9	4.0	0.6	サスカイト	D-1 青灰色粘質土層	
石鎌	9-10 16	23.0	17.3	6.5	2.05	サスカイト	E-4 青灰色粘質土層	
石鎌	9-11 16	32.4	23.0	6.0	3.5	サスカイト	E-2 青灰色粘質土層	
石鎌	9-12 16	38.9	15.0	5.1	2.55	サスカイト	E-4 青灰色粘質土層	
石鎌	9-13 16	34.5	16.1	5.8	2.7	サスカイト	B-3 青灰色粘質土層	
石鎌	9-14 16	22.0	14.0	3.4	0.8	サスカイト	南地区ZZ	
石鎌	9-15 16	49.9	21.2	5.3	7.3	サスカイト	C-3 青灰色粘質土層	
石鎌	9-16 16	21.0	11.1	3.0	0.6	サスカイト	D-3 青灰色粘質土層	
石鎌	9-17 16	15.2	13.8	3.7	0.7	チャート	ZZ(P)	

## 土 錘

種類	図版及び 図版番号	器種	長さ (mm)	最大径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	出土地点	備考
土 錘	8 15 - 1	管状土錘	41.5	13.5	3.3	7.85	G - 4 灰褐色砂質土層	
土 錘	8 15 - 2	管状土錘	37.4	11.7	3.1	4.4	F - 4 灰褐色砂質土層	
土 錘	8 15 - 3	管状土錘	43.1	11.0	1.8	4.3	F - 4 灰褐色砂質土層	
土 錘	8 15 - 4	管状土錘	40.9	13.4	2.5	6.15	D - 2 床 土	
土 錘	8 15 - 5	管状土錘	34.6	11.2	3.0	2.8	B - 2 青色色粘質土層	

## VII おわりに

『河内国交野郡寝屋長者鉢記』（『寝屋川市誌』所収）に、「これは弘安二年 河内国 交野郡に寝屋と申す所に大長者あり。唐土にては、信濃の国善光寺如来をあんぶ断金を以て造立したる天笠の月蓋長者、我朝にては長者の頭たる寝屋備中守藤原実高と申して、屋敷の東西十二丁、南北四丁にて東西に大門あり。（略）」とあり、寝屋の地に広大な長者屋敷があったと、寝屋長者の娘鉢かつぎ娘の伝承とともに広く人々の間に語り伝えられてきた。平尾兵吾氏は、その著書『北河内史蹟史話』の中で「口碑に伝えられて居る長者邸址は、大字寝屋字萩原にあって、萩原及垣内の一帯東西拾貳町南北四町、東西に大門があったので、東門のあった所を、今も門口と称し比所に濠を埋立てた跡が残って居る」と記して屋敷跡の地を考察している。

今回調査を実施した区域は、小字名萩原の一部で、平尾兵吾氏の推定する屋敷跡地にあたるところで、現在の寝屋の集落の東端に位置する旧水田地である。

今回調査で発見された遺構は、竪穴式住居1棟、井戸2基、溝及び耕作痕と推定される溝状遺構、落ち込み状遺構が確認されている。遺物としては、ナイフ形石器、石+、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、土釜、土鍤、砥石、陶磁器類、貨銭等の旧石器時代から近世に至るまで幅広い時期のものが出土している。これら出土遺物のうち、近世の陶磁器類が床土内より多数出土していることは、この付近一帯が近世において開墾され水田化されたことを示している。

現在生駒山地西麓で旧石器時代の遺物を出土する遺跡としては、20ヶ所確認されており、寝屋川市内においても太秦、打上、高宮の各遺跡でそれぞれナイフ形石器が出土している。今回の調査地の周辺では、東南約700mのところに小型のナイフ形石器等を数多く出土した交野市布懸遺跡が所在しており、今回出土のナイフ形石器は、旧石器時代研究に一資料を提出するものである。さらに縄文時代、弥生時代の石鎌及び弥生時代後期の土器底部を出土していることは、この付近ではキャリバー式土器を出土した縄文時代中期の交野市星田旭遺跡以外に知られていない現状において、今後周辺で縄文、弥生時代の遺跡発見の可能性が考えられる。

竪穴式住居については、後世の削平のためにその保存状態は非常に悪く、とくに北西側は完全に削平されてしまっている。また、竪穴式住居内からは、少數の土師器が出土しただけで時期を明確にすることは困難である。

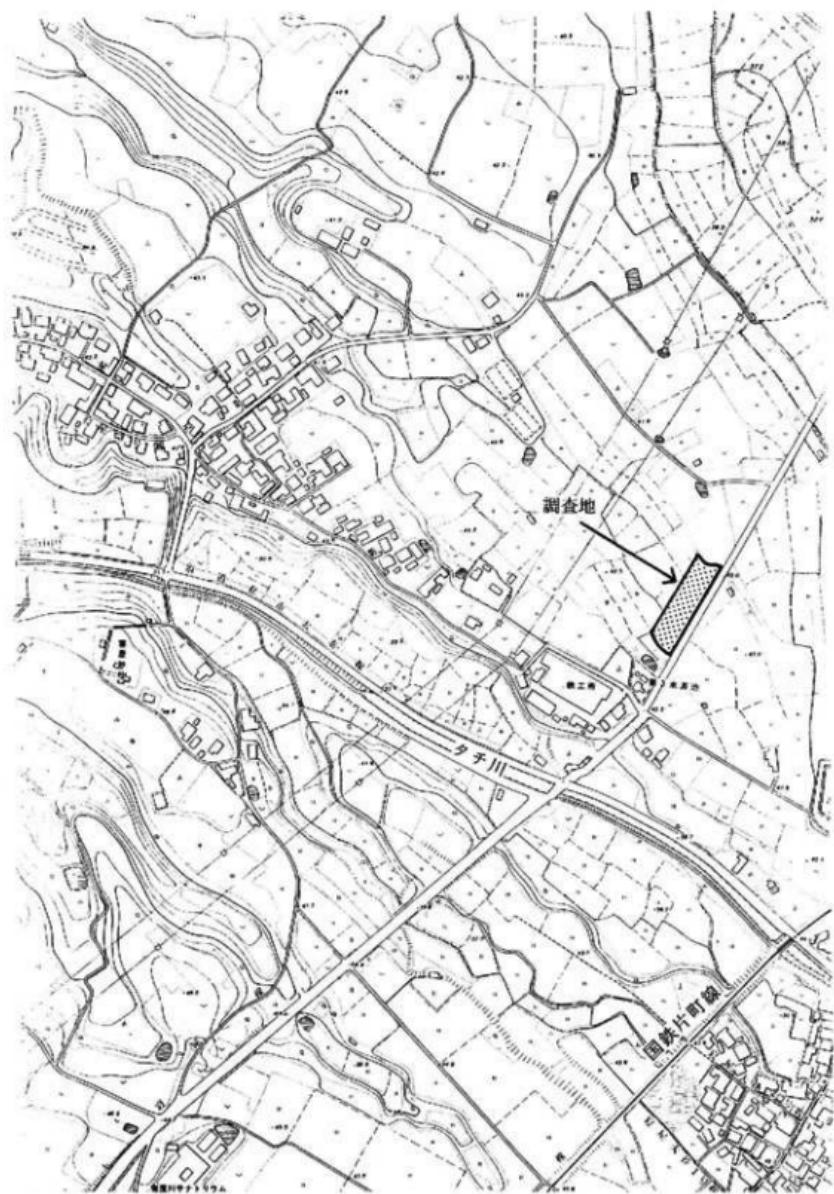
今回の調査では、「御伽草子」「鉢かづき」の伝承にある寝屋長者屋敷跡に直接関連する遺構は確認することはできなかったけれども、同時期（中世）の遺物、遺構として、溝及び耕作痕と推定される多数の溝状遺構と落ち込み状遺構を確認し、瓦器片等がこれらの遺構内から出土していることなどから、人々の生活の場がこの地域に営まれていたことをうかがい知ることができ、さらに寝屋の地や近隣の地には、寝屋長者や鉢かづき姫に関連すると伝えられている数多くの遺跡や遺物が残されており、今後さらにそれらの詳細な調査研究を実施していく必要があるであろう。

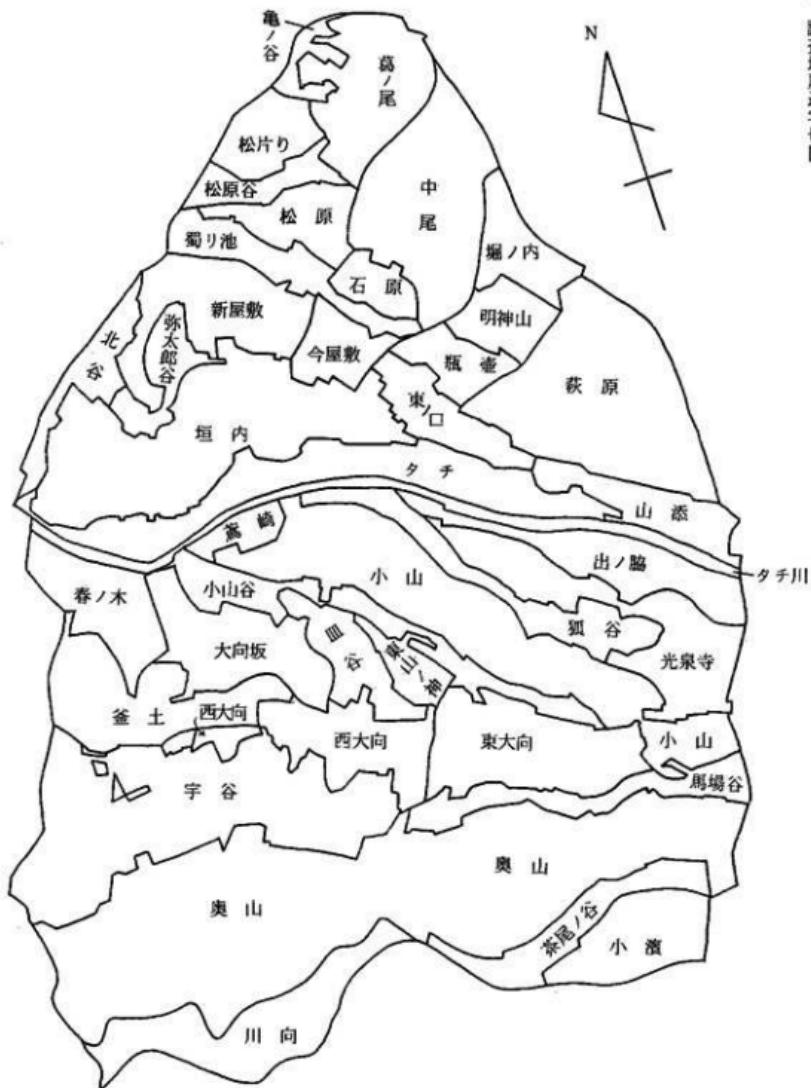
# 図 版

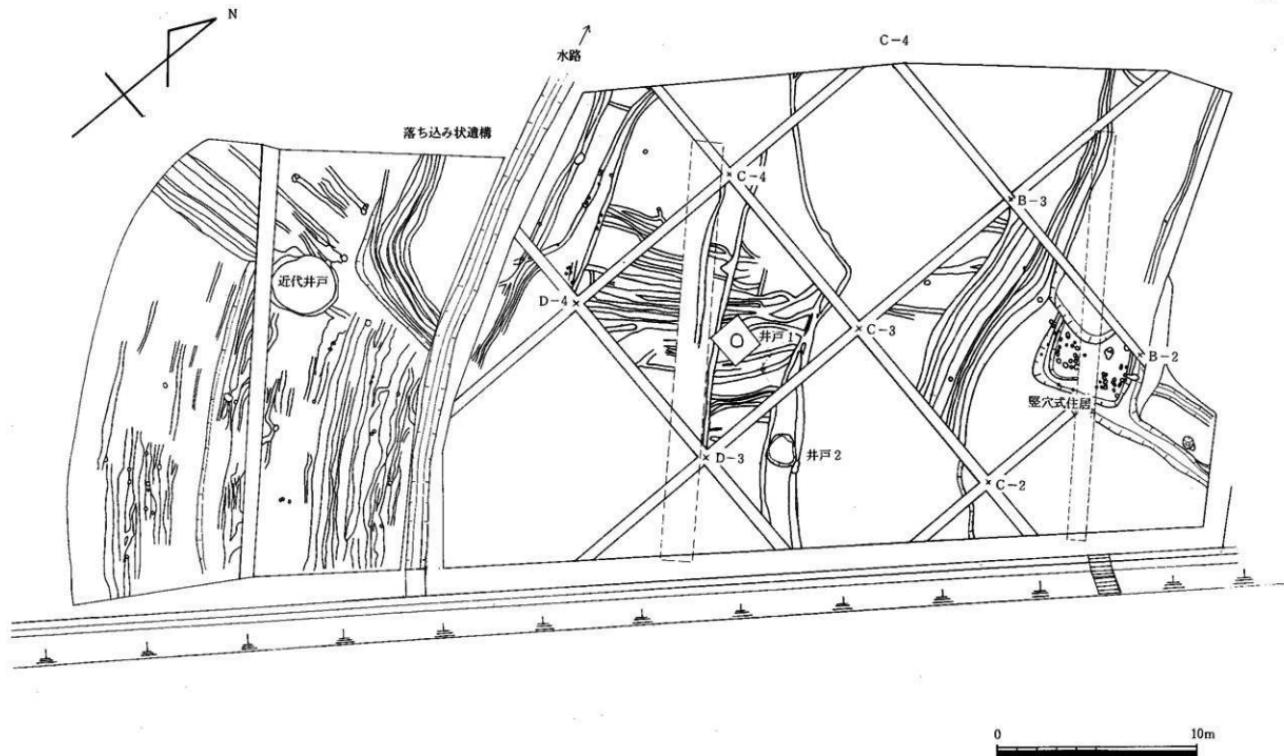
図版1 寝屋長者屋敷跡伝承地周辺遺跡分布図

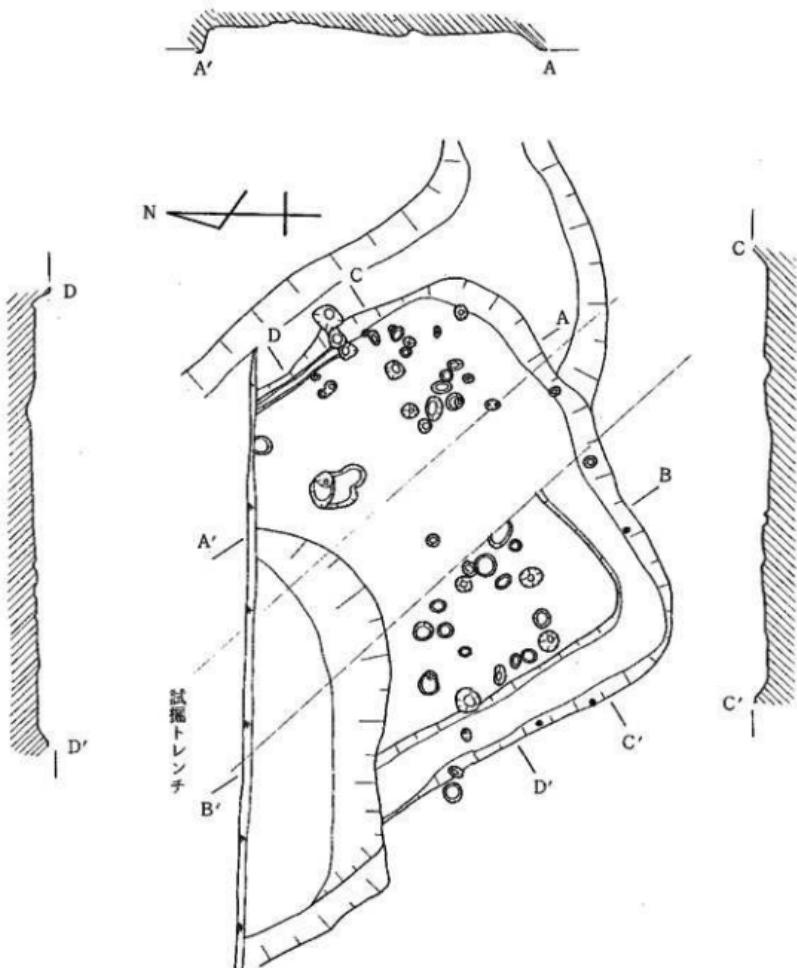


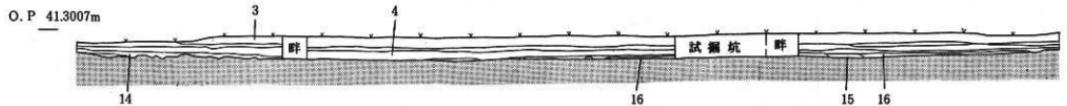
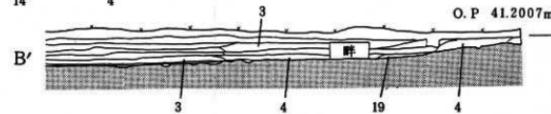
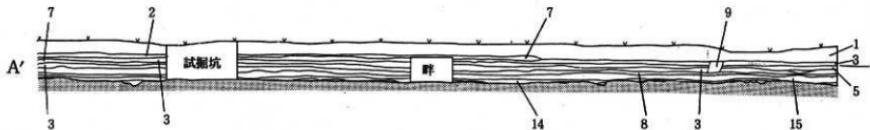
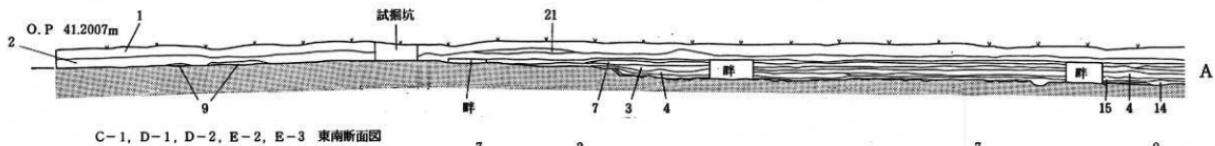
- |         |               |               |
|---------|---------------|---------------|
| 1 菅相塚   | 10 星田駅西遺跡     | 18 鹿の埴輪出土地    |
| 2 成田遺跡  | 11 寝屋長者屋敷跡伝承地 | 19 太秦庵寺跡      |
| 3 三井南遺跡 | 12 星田旭遺跡      | 20 太秦遺跡・太秦古墳群 |
| 4 秦山遺跡  | 13 寝屋南遺跡      | 21 トノ山(高塚)古墳  |
| 5 池の瀬遺跡 | 14 太秦北遺跡      | 22 寝屋古墳       |
| 6 寝屋遺跡  | 15 堀ノ塚古墳      | 23 打上遺跡       |
| 7 寝屋東遺跡 | 16 太秦一号墳      | 24 史跡高宮庵寺跡    |
| 8 茄子作遺跡 | 17 神宮寺跡       | 25 高宮遺跡       |
| 9 布懸遺跡  |               |               |



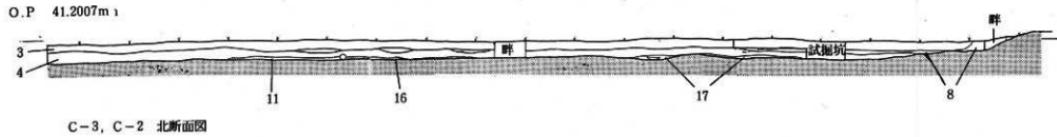
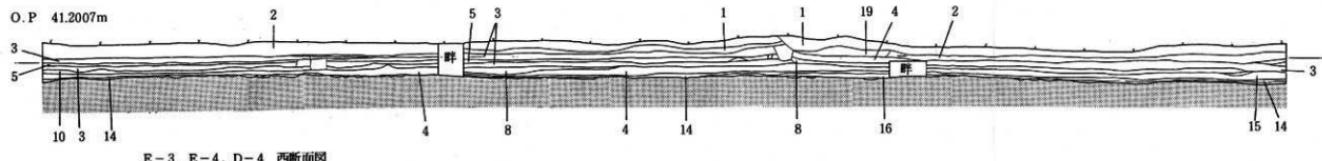
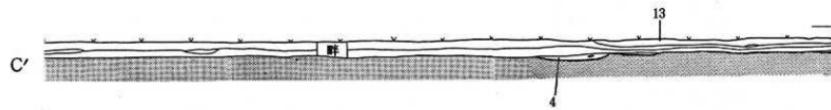
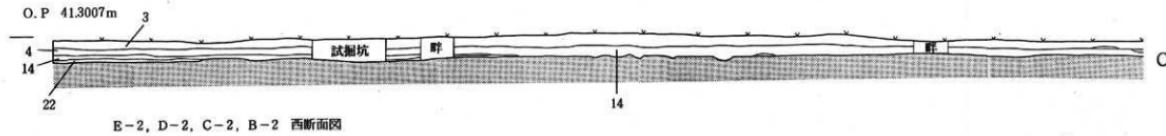




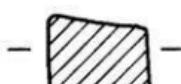
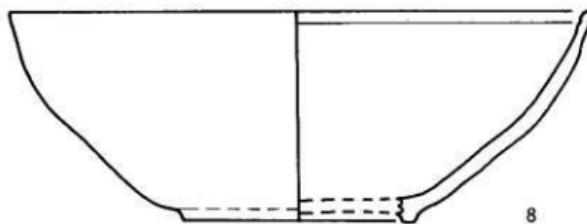
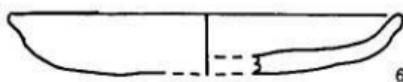




- |            |             |              |              |
|------------|-------------|--------------|--------------|
| 1. 耕土      | 7. 灰白色粘質土層  | 13. 黄灰白色粘質土層 | 19. 暗青灰色砂質土層 |
| 2. 暗灰色土層   | 8. 青灰黄色粘質土層 | 14. 灰褐色粘質土層  | 20. 茶灰色砂質土層  |
| 3. 黄灰色粘質土層 | 9. 橙灰色粘質土層  | 15. 青灰褐色粘質土層 | 21. 橙色砂質土層   |
| 4. 青灰色粘質土層 | 10. 暗黃色粘質土層 | 16. 黄灰褐色粘質土層 | 22. 黄灰色粘土層   |
| 5. 灰色粘質土層  | 11. 暗褐色粘質土層 | 17. 暗暗褐色粘質土層 |              |
| 6. 灰黄色粘質土層 | 12. 茶色粘質土層  | 18. 青灰色砂質土層  |              |

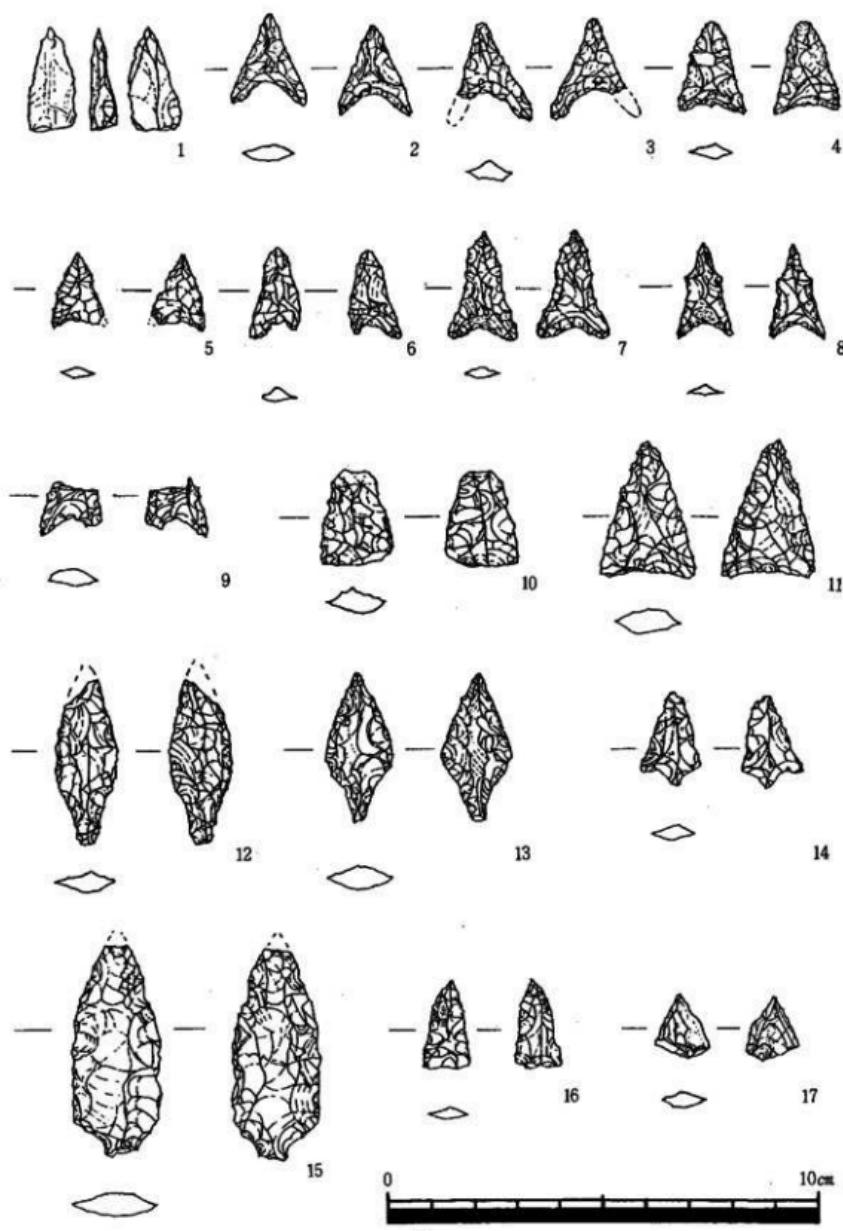


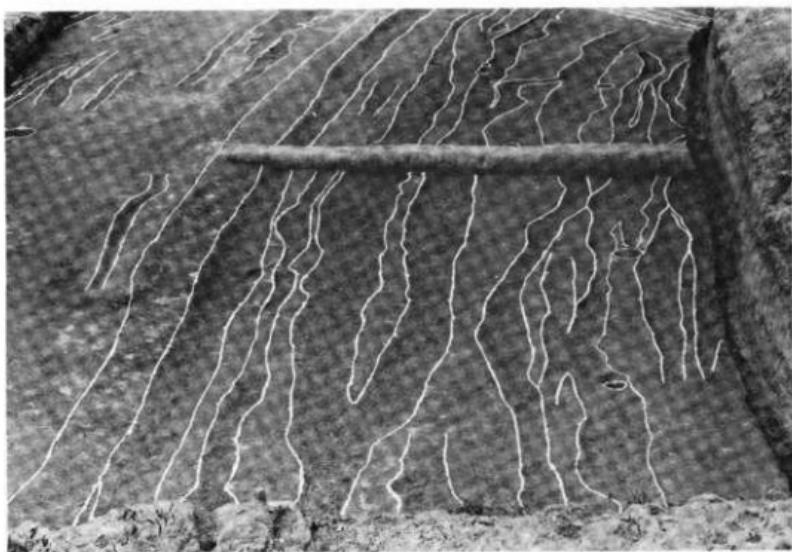
- |            |              |              |              |
|------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. 耕土      | 7. 灰白色粘質土層   | 13. 黄灰白色粘質土層 | 19. 暗青灰色砂質土層 |
| 2. 暗灰色土層   | 8. 青灰黄色粘質土層  | 14. 灰褐色粘質土層  | 20. 茶灰色砂質土層  |
| 3. 黄灰色粘質土層 | 9. 棕灰色粘質土層   | 15. 青灰褐色粘質土層 | 21. 棕色砂質土層   |
| 4. 青灰色粘質土層 | 10. 暗黄灰色粘質土層 | 16. 黄灰褐色粘質土層 | 22. 黄灰色粘土層   |
| 5. 灰色粘質土層  | 11. 褐灰色粘質土層  | 17. 暗灰褐色粘質土層 |              |
| 6. 灰黄色粘質土層 | 12. 茶灰色粘質土層  | 18. 青灰色砂質土層  |              |



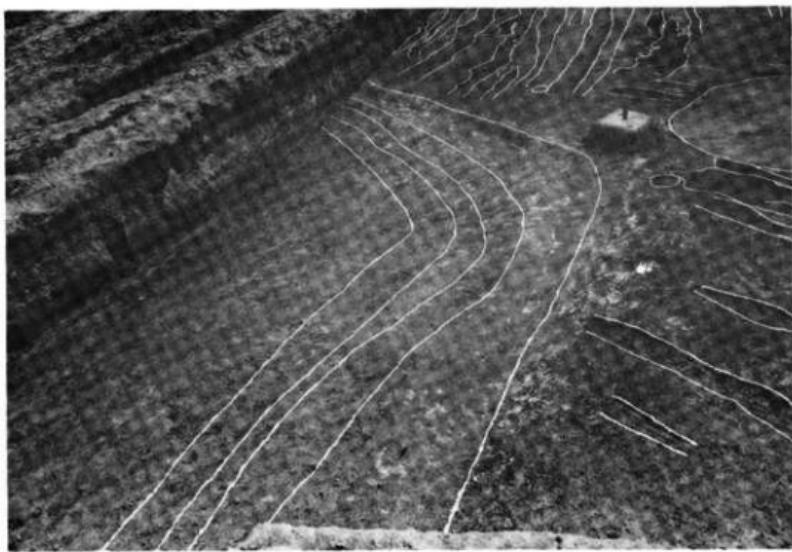
0

10cm





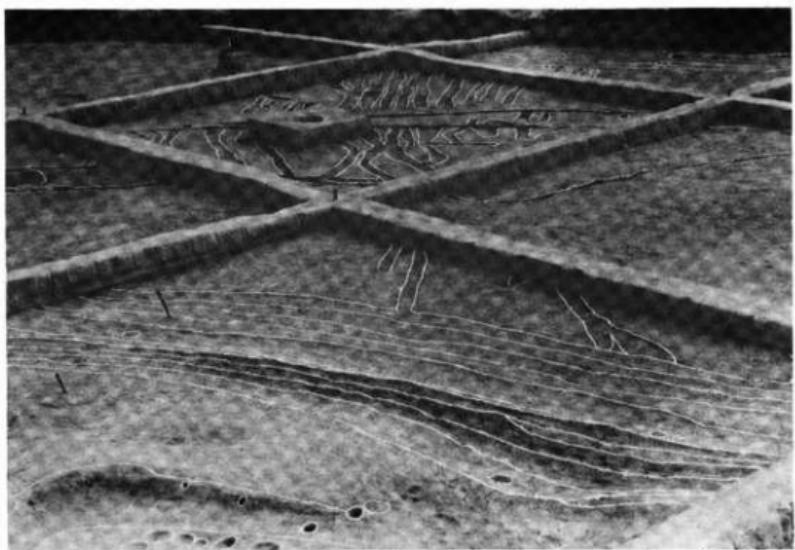
溝



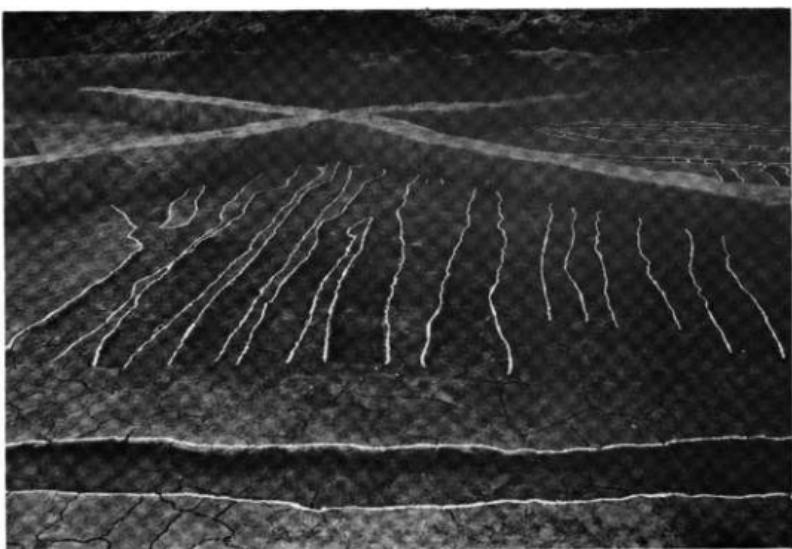
落ち込み状遺構



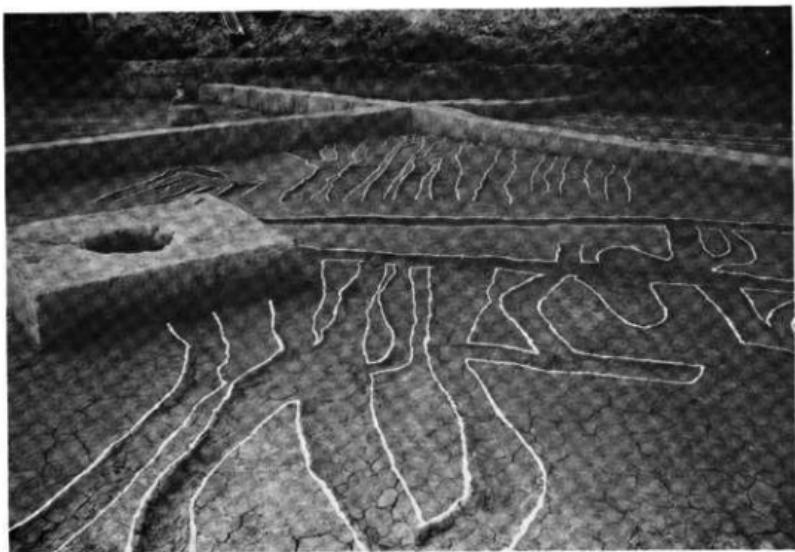
溝・耕作痕



溝・耕作痕



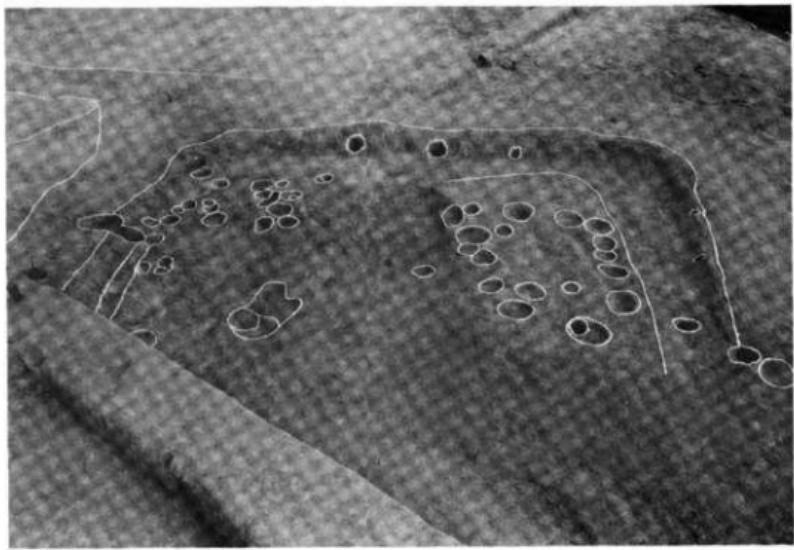
耕作痕



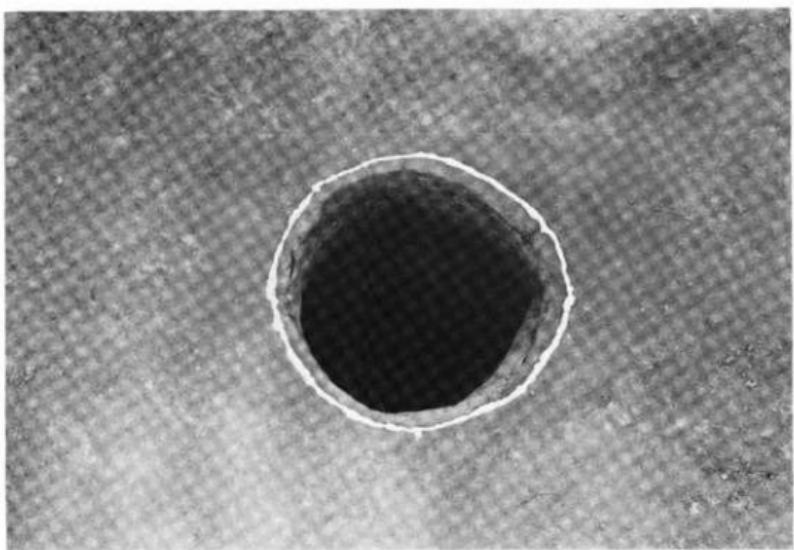
耕作痕 · 溝



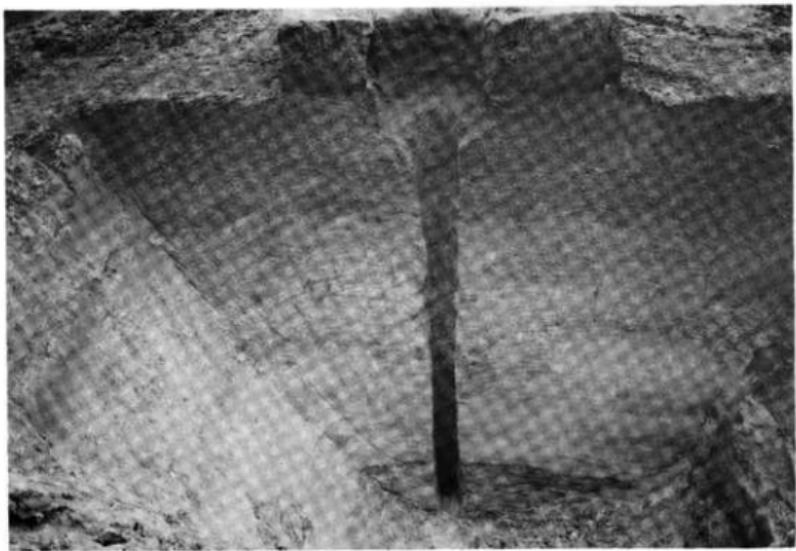
東南より



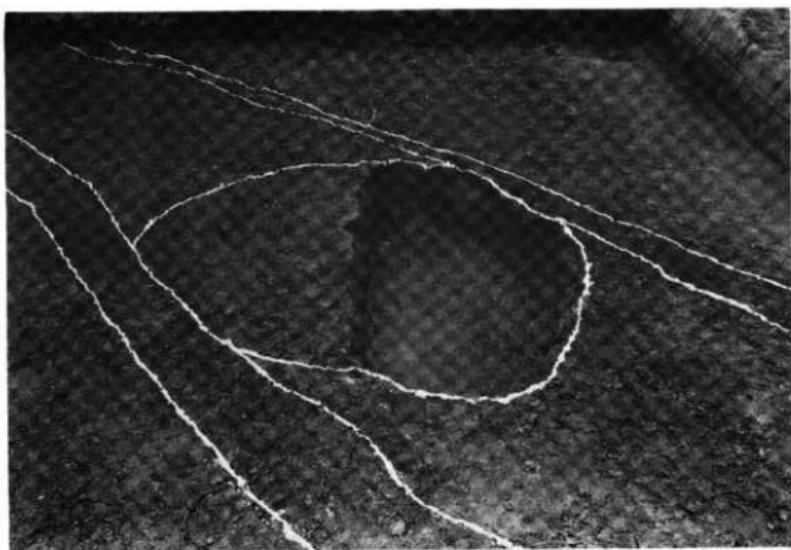
北西より



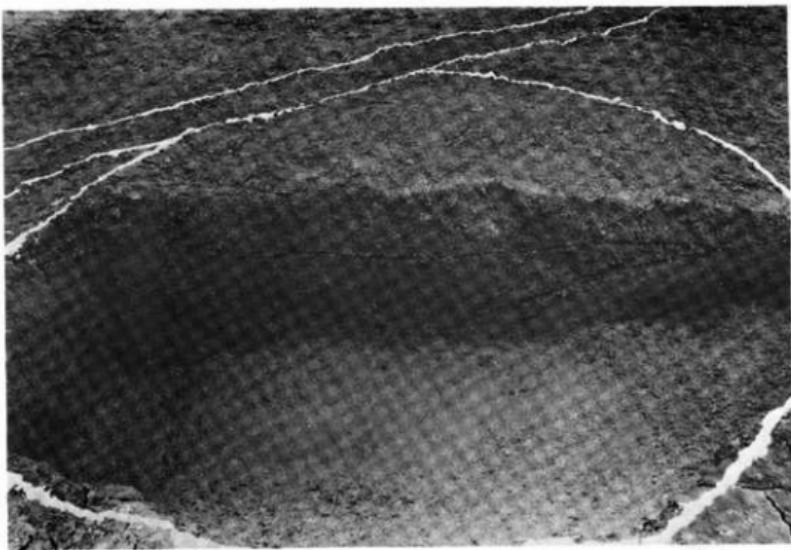
上より



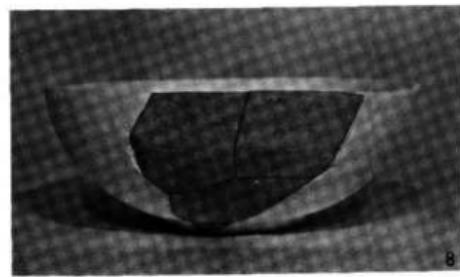
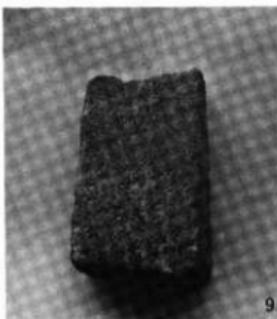
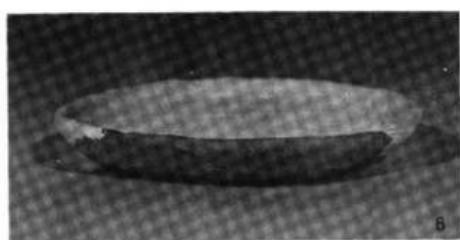
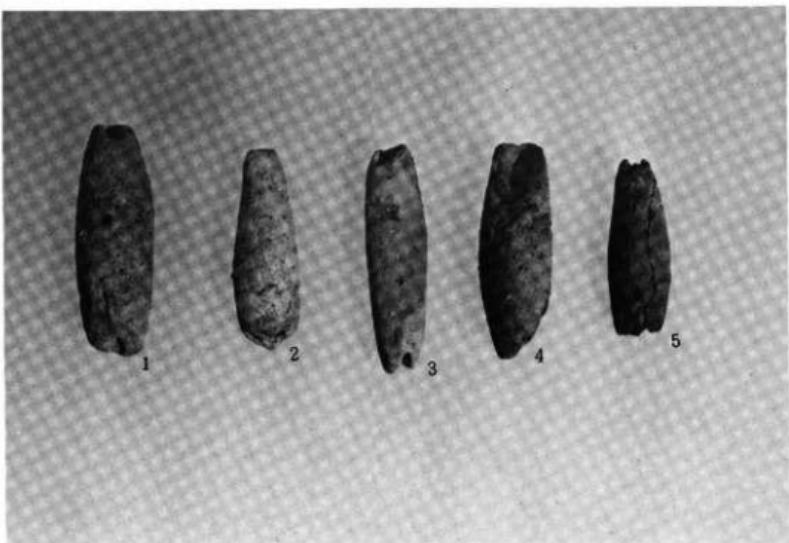
断面

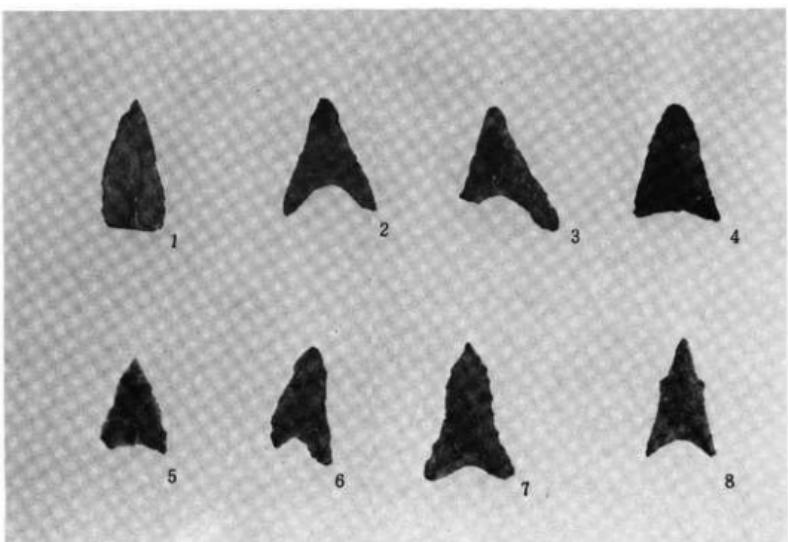


北 より

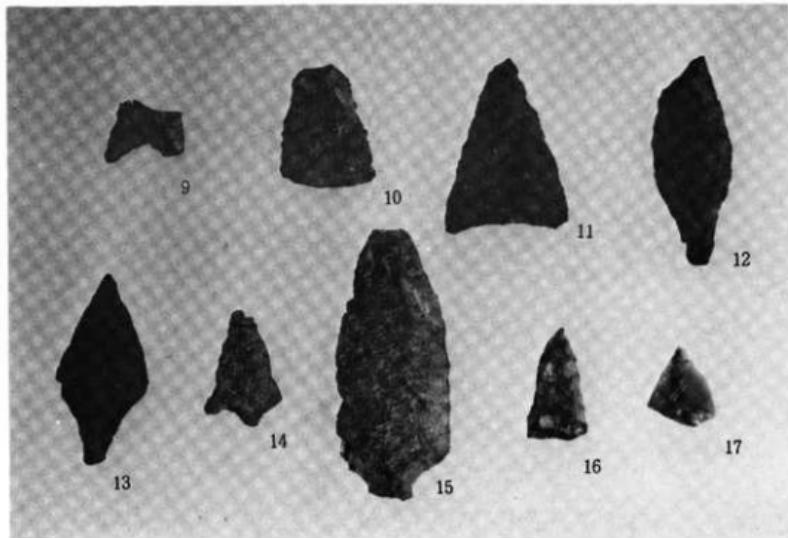


断面

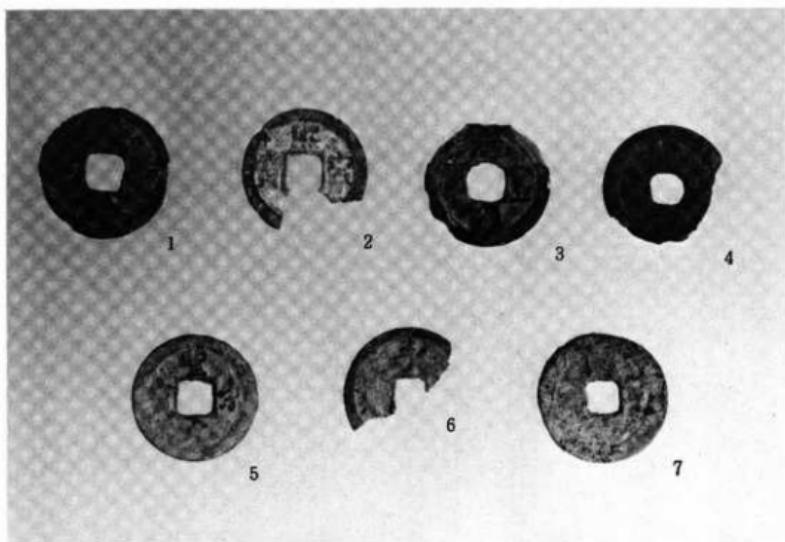




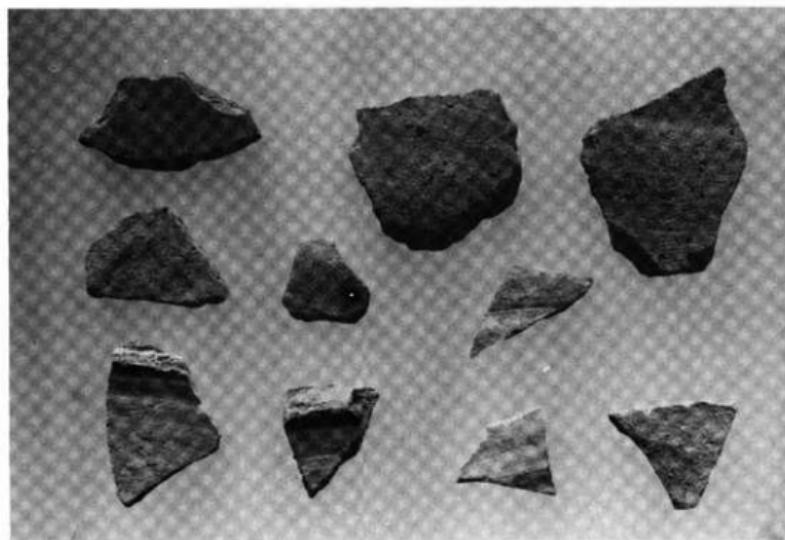
ナイフ形石器・石鎌



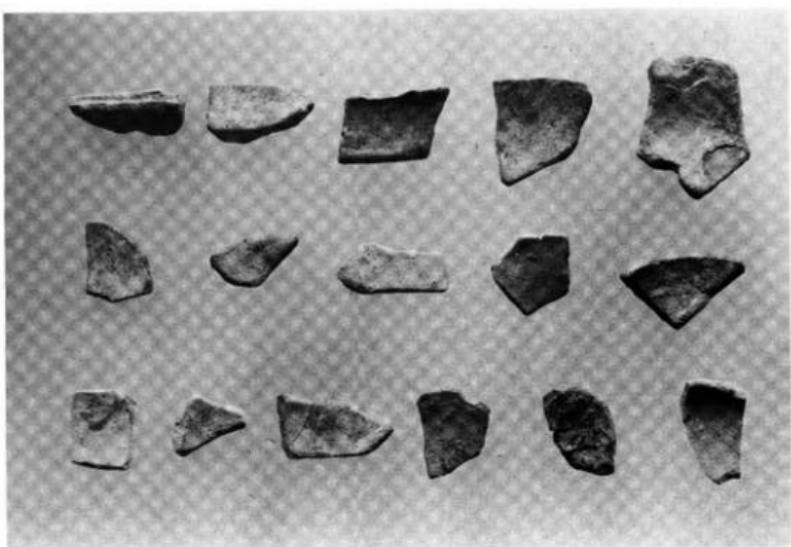
石鎌



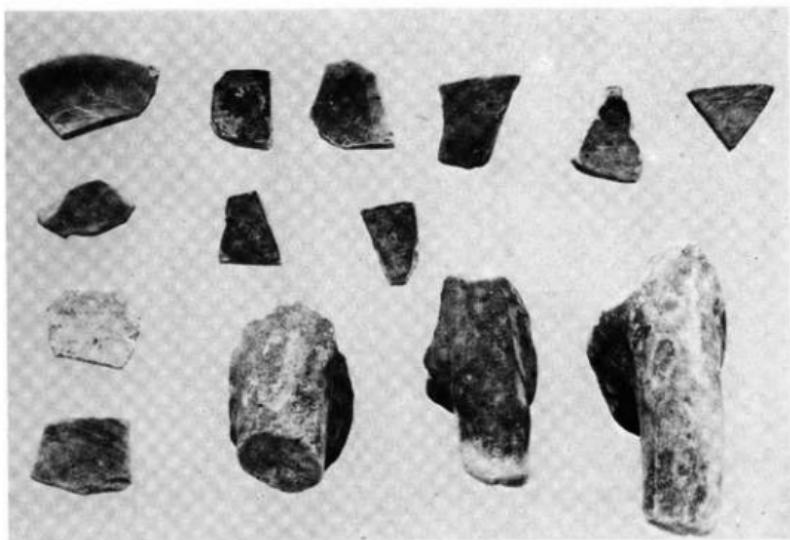
貨 錢



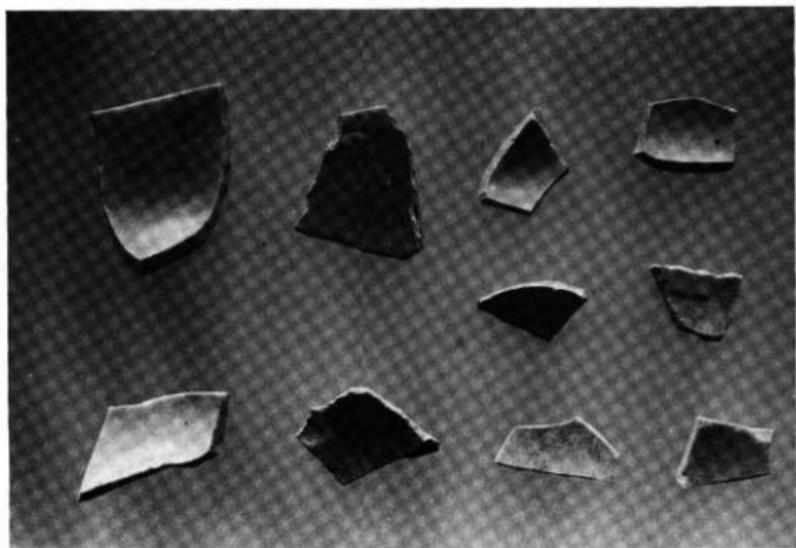
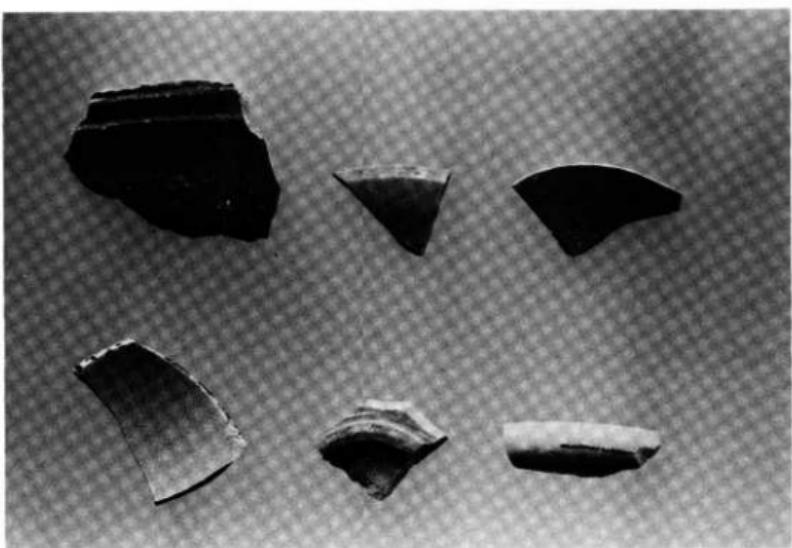
須惠器



土師器



瓦器・土釜



**寝屋長者屋敷跡伝承地**

—寝屋川市水道局寝屋配水場築場に伴う  
発掘調査概要報告—

昭和59年3月

編集 寝屋川市教育委員会

発行 寝屋川市教育委員会

